

## 日病薬の最近の動き(40)

### 新カリキュラム対応研修について

生涯研修委員会  
委員長 幸田 幸直

#### はじめに

薬学教育六年制の実施を受け、その教育課程において大きなウェイトを占める実務実習の指導を担当する薬剤師を養成する事業、すなわち「認定実務実習指導薬剤師養成研修」が、実務経験5年以上の薬剤師を対象に講義研修とワークショップとして実施されており、すでに多くの会員が参画していると思う。その事業と並行する形で実施されるのが、「新カリキュラム対応研修」である(図1)。これらは、いずれも厚生労働省補助事業として日本薬剤師研修センター(以下、研修センター)において実施される薬剤師の研修事業であるが、両事業の計画立案に日本病院薬剤師会側委員として参画していたので簡単に紹介する。前者の指導薬剤師養成事業については日本病院薬剤師会雑誌(第41巻7号、825-829頁、2005年)に掲載したので、ここでは後者について記す。なお、両事業の詳細については研修センターのホームページを参照していただきたい。

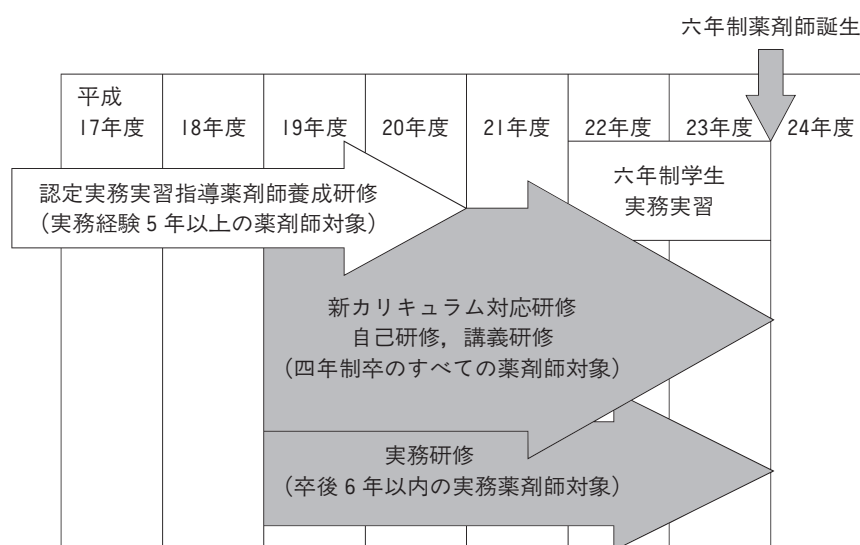


図1 新カリキュラム対応研修事業と認定実務実習指導薬剤師養成事業の比較  
(研修センターのホームページより引用)

#### 新カリキュラム対応研修

新カリキュラム対応研修は、薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づいて実施される六年制課程教育とこれまでの四年制課程教育との差を埋めるべく、新しいカリキュラムで拡充された医療薬学と長期実務実習を中心に実施される。具体的には3種類の研修プログラム、すなわち自己研修、講義研修、実務研修で構成される。それらの研修の対象者は、四年制課程教育修了者すべてを対象とするものの、重点は、病院または薬局に勤務する卒後間もない実務経験の浅い薬剤師にあてられる。

(1) 自己研修

研修対象は、四年制課程教育を修めた薬剤師のうち、主として病院または薬局に勤務する薬剤師とする。研修分野は、六年制課程教育において特に重要な医療薬学分野のうち、自己学習で学ぶことの可能な基本的な事項とする。研修方法は、自宅等で学習できるようにCD-ROMを教材とし、受講者が学びながら問題を解くことで自身の理解度を確認できる方法をとる。学習後には修了試験が組み入れられており、合格者は研修センターから修了証が交付される。

(2) 講義研修

研修対象は、上記(1)の薬剤師のうち、主として以下の講義研修プログラムの対象領域に関する知識と経験が比較的浅い薬剤師とする。研修分野は、六年制課程教育において特に重要な医療薬学分野のうち、最新の知見や高度な技能の修得につながる分野を中心に、その内容は自己研修では学習することの困難な応用的な事項とする。表1に具体的な内容を示す。研修方法は、質疑応答のできる座学形式を原則にするが、その講座をVTRやDVDに収録したものをを用いて各地で集合研修を行うことも計画されている。

(3) 実務研修

研修対象は、上記(1)の薬剤師のうち、比較の実務経験が少ない薬剤師とする。平成19年度から実施する実務研修は、当面、主に平成15～20年度（平成16～21年）に卒業した薬剤師とする。研修分野は、六年制課程教育において実施される実務実習のうち、四年制課程教育における実務実習および卒業後の実務ではなかなか体験できないカリキュラムを中心にする。表2に具体的な内容を示す。研修方法は、薬局または病院において実務に携わる形式とする。各コースは原則として連続した10日間とするが、一般研修については休日を含む週1日程度の間隔（3ヵ月以内に修了）で実施することも可能である。

表1 講義研修分野

I 精神科系	気分障害、統合失調症
II 心・血管系	高血圧、脳血管障害、不整脈、心不全
III 呼吸器系	気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患を含む肺疾患全般
IV 消化器系	消化管疾患、肝（胆・膵）疾患
V 骨・関節系	関節リウマチ、骨粗鬆症
VI 代謝系	糖尿病
VII 腎・泌尿器系	腎疾患(腎不全他)、前立腺肥大を含む排尿障害
VIII 高リスク患者	小児、妊産婦、高齢者、末期がん患者(疼痛緩和)

(研修センターのホームページより引用)

表2 実務研修分野

薬局	一般研修	処方監査・調剤・薬歴管理・服薬指導等
	特定分野	漢方薬調剤
	特定分野	薬局製剤
	特定分野	居宅等業務
病院	一般研修	処方監査および調剤、リスク管理等
	特定分野	病棟業務
	特定分野	治験
	特定分野	医薬品情報
	特定分野	救急医療
	特定分野	注射・栄養管理

(研修センターのホームページより引用)